



横浜市立新橋小学校

学校だより



横浜市立新橋小学校
校長 内田 宏

学校に来るからこそできる学び

4月の朝会で「学校に来るからこそできる学び」について、子どもたちと一緒に考えました。朝会では、校内のユリノキを昨年1月から毎月初めに、できるだけ同じ時間帯で観察し続けてきた取組について、体育館のスクリーンで紹介しました。同じ木を、同じ場所で、同じ条件に近付けながら観察し続けることで、はじめて見えてくる変化があります。スクリーンに映した1月から9月までのユリノキの様子を見ていくと、1月から3月にかけては、見た目には大きな変化がないように感じられます。しかし、4月から5月のわずか一か月ほどの間に、枝先が一気に緑に包まれていく様子が分かります。その後は、6月以降、月を追うごとに葉が少しずつ大きくなり、緑の色も次第に濃く、豊かになっていきます。

一度見ただけでは気付にくいことも、こうして観察し続けることで、違いや変化がはっきりと見えてきます。さらに、天気や気温の様子とあわせて記録していくことで、「なぜこの時期に大きな変化が見られるのか」「気温の変化と葉の成長にはどのような関係があるのか」といった、自然と科学的に向き合う視点も育っていくことでしょう。今は、インターネットを使えば、多くのことをすぐに調べ、知ることができる時代です。しかし、学校では、実際に「見て」「確かめて」「考える」ことを、仲間と一緒に行うことができます。本物を前にして感じたことや気付いたことを言葉にし、友達と考えを伝え合う中で、学びはより確かなものになっていきます。

4年生の理科では、一年間を通して生き物の様子を継続して観察する学習がスタートしました。校内にある「ひかりの池」も、その大切な学びの場の一つです。池の中では、メダカが群れをつくって泳ぎ、春にはオタマジャクシの姿も見られるようになりました。子どもたちは、身を乗り出すようにして水の中をのぞき込み、「前と比べてどうだろう」「なぜだろう」と、素直な気付きや疑問をもっています。その一つ一つが、これからの理科学習の大切な土台となっていきます。

新橋小学校では、実際に観察したり体験したりすることを通して、仲間と考え、学びを深めていくことを大切にしていきたいと考えています。令和8年度も、「新橋小学校だからこそできる学び」を全教職員で支えながら、一人ひとりの成長を丁寧に見守っていききたいと考えています。